

大阪府建団連・建設産業専門団体近畿地区連合会

建設産業の現状と今後 北浦年一会長に聞く



○ 建設産業の現状について

・これまで建設産業、とりわけ下請（専門工事業者）は、互いに足の引っ張り合いをし、元請に天秤にかけられて、安値受注をしてきた。この繰り返しであった。

・この問題を解くには、先ずは原点に戻る必要がある。60年前にヒントがあると考えている。

・建設業の基本は職人である。当時の親方は、先ずは土地を購入し、田んぼを埋めて、宿舍を立て、職人を集めて、職人を食わす為に仕事を確保してきた。高度成長期に入り、単価と賃金が上がってきた右肩上がりの時代であった。

しかし、いまは仕事を受注してから、職人を集めている。完全に60年前と逆になっている。これからの日本は人口が減少し、東京一極集中が極度に進んでいくであろう。近畿にいる我々にとって、非常にむづかしい時代になってくるだろう。

また、請負契約であるので、職人を完全雇用しにくい時代になった。しかし、職人に投資して、職人を育てなければならぬ。職人の使い捨てをしてはいけない。

○ 職人の処遇と人材確保について

・いまは、公共投資が増えて、仕事量が増えているから、建設業で働く人が増えている。しかし、来以降、公共事業は減少していくだろう。専門工事業は、受注産業であり、安定しない。これから受注が減少していくだろう。

しかし、今後の建設業を支えるためには、全体の約3割は優秀で資格を持った職人が必要である。

せめて資格を取得している優秀な職人には、能力に見合う処遇が必要であり、最低500万円の年収を実現する必要があるといっている。

・社会保険に入らないといけないと言え、労務費が増えて、会社が潰れると言ってきた。いつも、この繰り返しの議論ばかりであった。どうしたら職人を守るができるのかという観点で見た場合、病気やケガをしても保険があつて、病院に行くことができるのは当たり前のことである。

この当たり前のことを言うと、現実をわかっていないとか、先を読んでいないと反論が返ってくる。約40年間、同じ議論を繰り返してきた。

建設業界は各職種で、必要な社会保険料（法定福利費）を元請に求めている動きはあるが、思うようにまとまっていけない。元請側から見た場合に、専門工事業者の中に、職人の処遇に対する格差が垣間見えて、経費の違いを指摘されている。

公共工事が2〜3割増えて、労務単価も少しは上がっているが、さほど末端の職人の給与はあがっていない。これからの時代は、労務費・諸経費・利益などを明らかにすることが必要になる。透明にしていく必要がある。

・ポンプ圧送は過酷な作業である。近圧協は労働者を社会保険に加入させている。この当たり前のことをしてきたことが素晴らしい。標準料金を実施し、経費を明らかにできれば説得力もでる。

・これからは、いまの物価上昇の局面にあつて、賃金も上がっていく。今後は、専門工事業の人材確保には他産業との競争がある。他産業では、賃金や労働条件が上がってきている。こうした変化も考えておかなければならない。

・いま、親方はよく人手が足りないと言っている。しかし、職人を抱えている中で、仕事がないのはもつと厳しい。この時、60年前のことを考えれば、どうすればよいのかのヒントがある。

○ 建設産業の今後について

・いま、親方はよく人手が足りないと言っている。しかし、職人を抱えている中で、仕事がないのはもつと厳しい。この時、60年前のことを考えれば、どうすればよいのかのヒントがある。

近圧協も、ポンプ車が足りないというちはいい。最近の近圧協は、全体的には右肩上がり推移してきたが、必ず仕事量が減少するときはくる。新たな時代の変化に対応できる勉強をしておかなければならない。

・これからは、マイナンバー制度の導入がある。働く者の社会保障・税・災害対策の分野で、これまで複数の機関に登録されていた個人情報マイナンバーに集まる。マイナンバーを見れば多くのことが明らかになる時代になっていく。個人の社会保障や雇用保険の加入未加入や税金の納税状況もわかる。問題があつた場合、経営者にどのような影響が及ぶのか勉強をしていく必要がある。

・ものづくりの好きな若者はいる。先ずは現場作業をし、分かってくる仕事で面白くなり、好きになる。こうした若者が建設業に定着できる環境にしなければならぬ。また、将来的には、小学生ぐらいの子供に、仕事に興味を持ってもらえるような取り組みが必要になる。

さらに、建設業は男の仕事だけの時代ではない。優秀な女性が多い。本気で女性の活用に取り組まなければならない。但し、女性を便利使いだけで雇用するのではなく、管理職や重役等に登用していく必要がある。家では嫁に頭があがらない男が多いのに、仕事場で偉そうにしていてはダメだ。

・これまでの高度成長期では、経営者は他力本願であっても、通用してきた。中小零細企業は3代で潰れるといわれる。経営者の器が大きなものになれば、継続的な成長や発展が望める可能性が高い。新たな時代の変化に対応した勉強をしなければならない。

高度成長期の理論は崩壊し、新たな理論が必要になる。これからの時代、特に勉強が必要だ。勉強しない者は生き残れないと覚悟しておいたほうがよい。

・専門工事業者は、各職種が協力し合つて、みんなで作っているという思いが大切だ。みんなで協力してこそ専門工事業者が成り立つことをしっかり確認しておく。

・専門工事業者は、各職種が協力し合つて、みんなで作っているという思いが大切だ。みんなで協力してこそ専門工事業者が成り立つことをしっかり確認しておく。

・専門工事業者は、各職種が協力し合つて、みんなで作っているという思いが大切だ。みんなで協力してこそ専門工事業者が成り立つことをしっかり確認しておく。

・専門工事業者は、各職種が協力し合つて、みんなで作っているという思いが大切だ。みんなで協力してこそ専門工事業者が成り立つことをしっかり確認しておく。